

自主事業



子どもの安心・安全を守る活動

子どもの安心・安全な環境づくりのための支援プログラムの無償提供を、財団設立当初から実施しています。2021年度は、ネット利用の低年齢化やGIGAスクール構想の広がりにより、学校現場からのネットリテラシー教育へのニーズが高かったことが特徴的でした。

教育プログラムの開発・普及

防災

保育園・幼稚園向け



防災教育紙芝居「じしんのときのおやくそく」
全国の保育園・幼稚園等配布数*のべ約 **12,000 園**

防犯

小学校 低学年向け



子どもの安全・安心ハンドブックと安全教室実施パッケージ
全国の小学校等配布数*のべ約 **43 万部**

ネット

小学校 中・高学年向け



初めてのスマホ安心ガイドブックと安全教室実施パッケージ
全国の小学校等配布数*のべ約 **57 万部**

*配布数はすべて2022年3月時点

2022年度は

学校現場以外も含め、より多くの方に活用いただけるよう、引き続き普及の拡大を目指します。



経済的困難を抱える子どもの学び支援

助成団体の共通課題の解決に貢献するために、知見あるセクターと協業して支援施策に取り組んでいます。

学びの質向上



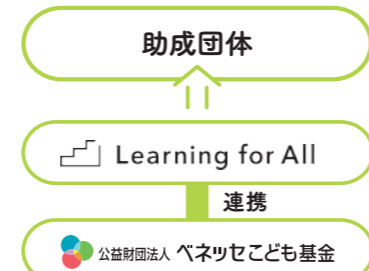
経済的に困難な状況にある子どもの学習支援領域において、先進的な団体「認定NPO法人キッズドア」と連携して、学習支援団体共通の課題である「学ぶ意欲」と「言葉の力」の向上をねらいとした中学生向け教材を制作。テスト配布を実施し、活用方法や効果を検証。



2022年度は

学びの質向上・課題の社会発信に取り組みながら、助成団体間の知見の交流を後押しし、団体共通課題の解決を支援していきます。

事業評価の模索 事業評価研究会の発足



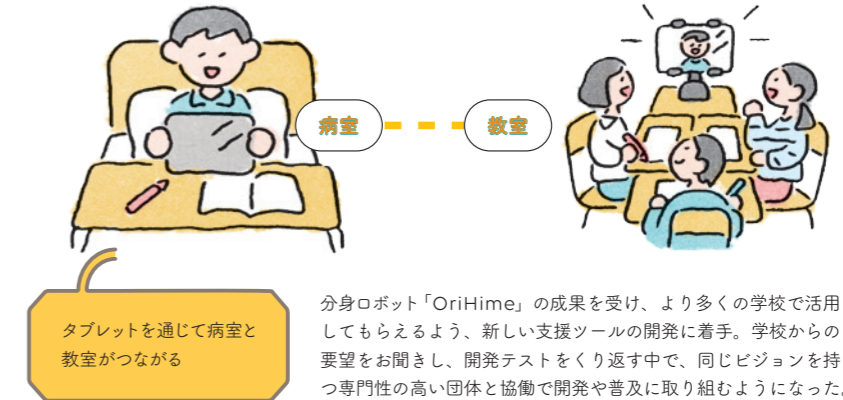
団体の活動を促進するための事業評価手法を、先進的な取り組みを実施している特定非営利活動法人Learning for All とともに実施。助成団体の事業活動を支援した。



病気・障がいを抱える子どもの学び支援

重い病気や障がいによって、学びに対するサポートを必要としている子どもとその保護者に対して、病院・学校・活動団体や専門家等と連携し、有効な学びのモデルづくりや情報提供などを行っています。

より普及しやすい学び支援ツールの開発へ



タブレットを通じて病室と教室がつながる

分身ロボット「OriHime」の成果を受け、より多くの学校で活用してもらえるよう、新しい支援ツールの開発に着手。学校からの要望をお聞きし、開発テストをくり返す中で、同じビジョンを持つ専門性の高い団体と協働で開発や普及に取り組むようになった。

2022年度は

2019年度の助成事業でモバイルWi-Fiルーターを配布した特別支援学校33校からモデル校を選定し、汎用的なICTツールを活用した学びの成功事例をつくり、全国に発信します。入院中の子どもが継続的に活用できるモデルを目指します。



よりよい社会づくりにつながる学び支援

予選ラウンド5勝3敗で悲願の決勝トーナメント進出!

先進的な取り組みを行っている団体とともに、子どもたちが、地域やコミュニティに主体的に関わり、社会をよりよくしていく一員としての役割を果たすことができる力を育む活動をしています。

メセナアワード 2021受賞

親子でチャレンジ国際理解! ちびっこおえかきコンテスト



認定NPO法人グッドネーバーズ・ジャパンと共催した国際理解のコンテストでメセナアワードを受賞。

東京2020パラリンピック 選手村マンガ制作



東京2020五輪・パラリンピック組織委員会の依頼を受け、共生社会にむけての工夫を知ることができる「東京2020パラリンピック選手村の工夫を探ろう!-選手村を通して共生社会について考える-」を制作しWEB公開。

高校生英語ディベート世界大会 (WSDC)

オンライン開催の中、日本代表は、史上初の決勝トーナメント進出! 過去最高の実績を記録



一般社団法人全国高校英語ディベート連盟 (HEnDA) の国際委員会と共同で、日本代表チームの国際大会への派遣事業などを企画・運営。

2022年度は

様々なセクターとともに、よりよい社会づくりにつながるテーマを企画し、実行していきます。